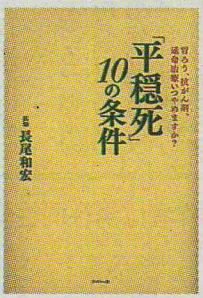
気になる新刊

「平穏死」10の条件

長尾　和宏著

24時間態勢の在宅医療に従事する医師が、無駄な延命治療を行わずに自然に旅立つ「平穏死」の迎え方を説く。



現代の日本では、命あるがままに死を迎えることが非常に難しい。入院すると、胃に直接栄養を流し込む胃ろうや高カロリー点滴、鎮静剤で眠らせたままにするセデーションなどの延命処置が、日常的に行われているためだ。

平穏死を望むなら、まずは在宅医療を選択し、みとり実績のある在宅医を探すこと。患者会に尋ねたり、医師会に直接聞いたりするといい。家族の負担を減らすため、葬儀社との打ち合わせも必須だ。

あらかじめ死について考えておくことで、残された時間の生き方がクリアになり、穏やかな死が迎えられるだろう。

（ブックマン社　133円）